

一木で造られています。石碑は、銘などは不明ですが、広原池の原庚申碑(60)と同タイプのものです。



川平の御堂



地蔵原の御堂

### 3 3. 西生寺址

現在は、都城市の梅北に寺址がありますが、元々は狭野の、地元の人が「七不思議の谷」と呼んでいた所にあったと伝えられています。西生寺は、平重盛の病気平癒のために創建されましたが、仁安2年(1167)の霧島山噴火により、梅北に逃れたと云われています。

### 3 4. 旧黒木家旧宅(昭和48年2月23日国指定重要有形文化財)



旧黒木家住宅

現在は、宮崎県総合博物館民家園に移築保存されていますが、以前は祓川の集落にありました。宮崎県南西部に分布している二棟型家屋の典型で、母屋等で構成された平入の「オモチ」、土

間等で構成された妻入の「ナカエ」、二棟をつなぐ「テノマ」から構成されています。



旧黒木家内部

昭和49年9月から翌年8月にかけて、祓川から現在地に解体移築されましたが、その際、棟札などが見つかり、天保5年(1834)から2年間かけて建てられたことや、嘉永元年(1848)から3年(1846)にかけて造られた高千穂用水の責任者であった平嶋平太左衛門の御用宿を勤めたことなどがわかりました。

### 3 5. 旧岩元家旧宅



旧岩元家住宅

現在は、皇子原公園の民俗体験資料館として利用されています。

以前は狭野にあり、持主であった岩元家は、代々狭野神社の神職の家柄で、棟札により、明和6年(1769)に建てられましたことがわかりました。昭和63年まで住居として使用されましたが、平成3年、現在の地に移築されました。

### 3 6. 旧高原町役場庁舎



大字西麓字上馬場にありました。新庁舎建設に伴い取り壊され、跡地には郵便局や派出所等があります。昭和9年(1934)、町制施行前に建設され、木造二階建の洋風建築は、当時かなり珍しかったようです。

昭和59年頃の高原町役場庁舎

## 第5章 有形文化財

### 第1節 石碑・石造物

#### 37. 天の逆(賢)鉾

高千穂峰の頂上にあり、全長約1.3m、鼻の高い人面が2個ついています。材質は何を使用しているのか、現在でも不明です。

この天逆鉾は、『三国名勝図會』には霧島東神社の社宝とありますが、具体的に、いつからその地にあるのかは定かではありません。霧島東神社所蔵の古文書によると、以前は上部に3本の鉾先が付いていましたが、度重なる噴火で鉾先が破損した姿が、鉾を突き立てたように見えることから、逆鉾の名が付いたものと思われます。現在のは信仰者の1人が修復したもので、折れたものは、戦前、都城の荒嶽権現に祀られていましたが、戦後の混乱で行方不明となりました。

又、鉾を動かすと、晴天の日でもたちまち雨が降り出すと云われ、戦前までは、よく日照りが起こると、蓑笠を着て、太鼓や鉦を打ちならして山に登り、雨乞いの儀式を行ったと云われています。

昔は、鉾は容易に人の触れられる位置にあったと思われ、坂本龍馬が鹿児島に滞在した折り、高千穂峰に登り、その形状や戯れに鉾を動かしたことなどが書かれた書状等からも窺えます。



天の逆鉾

#### 38. 屋敷野の碑

大字西麓字湯之崎にあり、現在は畑に半分ほど埋まっています。全長55cm、元龜4年(1573)4月に鶯河大隅守則武が大乗妙典一千部読誦を記念して建てたものと思われます。



屋敷野の碑



鹿兎山の石燈

### 39. 鹿兎山の石燈

大字西麓字池の原にあります。六角形の石塔で、全長73cm、文化12年(1815)9月に建てられたものです。傍には同じような石造物があり、それから推定すると、文化12年に神事が改められた霞権現社に関するものと思われる。

### 40. 越<sup>はなたて</sup>の華立



越の華立

大字後川内字越にあります。2基ありますが、いずれも六角形に整形され、1基は全長85cm、もう1基は62cm。いずれも元龜4年(1573)3月に源則武により建てられたものです。

華立とは、霧島山の遙拝所のことで、大抵の場合、霧島山縁辺地域の、霧島山を望む所に建てられています。高原町では、現在のところ、越のみで確認されています。

#### 4 1. 越の弘法大師堂奉納碑

大字西麓字瀬口にあります。いずれも、弘法大師信仰の中で奉納されたものと思われます。1基は、全長151cm、天保3年(1832)12月3に鍋倉八郎太が寄進した弘法大師塔です。もう1基は、全長115cm、天保5年(1834)6月に熊田某が奉納した碑です。



弘法大師堂奉納碑(天保3年碑)



弘法大師堂奉納碑(天保5年碑)

#### 4 2. 六地藏



六地藏

大字西麓字上馬場の、光明寺の境内にあります。元々は柳町の登記所に埋まっていたのを、光明寺に移したものと云われています。寛永15年(1638)に竹下大蔵により父母親眷属即身成仏・後生安穩を祈願して建てられたものです。『高原所系図壺冊』<sup>(註9)</sup>には、慶長3年(1598)から4年(1599)にかけて起こった庄内の乱に従軍した武士の一人に竹下大蔵の名が見られます。

### 4 3. 王子神社の石敢当<sup>せっかんとう</sup>

王子神社の参道にあります。全長46cm、銘は不鮮明で年不詳。

※石敢当とは、T字路の突き当たりや、辻に建てられる魔除けの石碑です。



王子神社の石敢当



永田家の石敢当

### 4 4. 永田家の石敢当

大字広原字高松の、永田家の敷地内にあります。全長45cm、無銘。

### 4 5. 下川原用水の記念碑と水分神



開田記念碑と水分神

大字西麓字水分にあります。碑のある場所は、下川原用水の水を町側と村移側に分ける分水点となっていますが、ここに水分神と、下川原用水路の記念碑があります。

この用水路は、嘉永元年(1848)から3年(1850)にかけての新田開発に伴って造られたもので、嘉永3年竣工の際に、記念碑と水分神が建てられました。石碑には、工事責任者の平嶋平太左衛門をはじめ、高原・高崎地頭などが名を連ねています。

#### 4 6. 広原三福神の水神



三福神の水神

大字広原字南川内にあります。石造で、全長82cm、内部が空洞になっており、中に石が数個納められています。安政7年(1860・万延元年)に造られました。

#### 4 7. 由善坊の碑



由善坊の碑

この碑は、元々は高原地頭仮屋の庭に建てられていたのを、高原小学校の敷地内に移された物です。全長151cm、碑四面にびっしりと書かれています。それによると、広原郷土藤田源五左衛門長保の家僕である由善坊は、主家の貧困や当主の病気などに際し、新田を開墾したり、修法を修得したりして主家を助け、84年の生涯の中で、実に六代にわたって仕えました。その忠節及び善行を讃え、地頭島津相馬から黄金、般若院から院号と紅衣などが下賜されました。そして後世にこのことを伝えるために、天保15年(1844)に碑が建てられました。

## 48. 孝子の碑



孝子の碑

由善坊の碑と同じく、旧高原地頭仮屋址に建てられていたのを、高原小学校の敷地内に移した物です。水流村(高原郷の飛地、現都城市)の農民作兵衛夫妻、蒲牟田村の東伊左衛門夫妻の孝行を讃えて、明治3年(1870)9月に建てられました。

## 第2節 仏像

### 49. 神徳院の仁王像



神徳院の仁王像



狭野神社の敷地内にあります。阿吽2体あり、背中の銘文と神社の古文書により、享保19年(1734)に作られたものと思われます。

元々は神徳院の山門に安置されていましたが、廃仏毀釈の折りに近くの溝に廃棄されました。それ以来大豆が不作となり、この大豆の不作を「仁王像の祟り」、仁王像を「大豆の神様」と言われるようになりました。その後地元住民によって仁王像を再び安置したところ、大豆が豊作になったと云われています。

## 50. 王子神社の仁王像

王子神社の参道沿いにあります。阿吽2像で、阿像は像長153cm、吽像は像長146cm、両腕が破損し、頸部にも修復の跡が見られることから、廃仏毀釈の際に破壊されたものと思われます。年不詳。



王子神社阿像



王子神社吽像

## 51. 狭野の地藏菩薩像

大字蒲牟田字木場前の、稲田家の敷地内にあります。以前は狭野神社の近くにありましたが、墓地などを経て現在地に安置されました。地藏菩薩立像で、全長116cm、光背と台座があります。光背の先端・首・両手首が破損しており、最近になって修理されました。光背に銘がありますが、年号部分で破損しており、作製年は不明。神徳院に関連して造られたものと思われます。



狭野の地藏菩薩像



高麗観音像

## 5 2. 高麗観音像

大字後川内字石ヶ野の、川沿いの御堂にあります。十一面観音立像で、全長128cm、頭頂部の仏面は欠損しています。作成年代は不明ですが、御堂の横の石碑には、天明2年(1782)と刻まれています。『三国名勝図會』では、文禄の朝鮮出兵の際、中別府某の祖先がもたらし、茅堂に安置したのが始まりとされています。

## 5 3. 田口家の不動明王像



大字蒲牟田字下村の田口家の敷地内に祀られています。不動明王の座像で、田口家の言い伝えによると、元々は瀬多尾権現社にあったものを、ある人が突然田口家に持ち込んできたそうです。それ以来、この不動明王像を祀っているということです。年不詳。

田口家の不動明王像

## 5 4. 広原三福神



広原三福神

大字広原字南川内にあります。明王系の三面六臂の座像(光背付)で、像長62cm、表面に彩色(朱)の跡が見られます。年不詳。

この像は通称「三福神」と呼ばれ、集落もそれに因んだものになっていますが、『日向地誌』<sup>(註10)</sup>によると、井手ノ上集落の東南三町ほどに「三方庚申」という集落があることから、元々の「三方庚申(三宝荒神?)」が訛って「三福神」という名前になったものと思われる。

## 第3節 庚申碑

### 5 5. 広原池の原庚申碑(平成10年4月1日高原町指定有形文化財)

大字広原字池の原の、池の原川の堤防上にあります。板碑型で、全長78cm。表面の銘によると、天正19年(1591)8月28日に、鳥集対馬守が代表となり、庚申供養と橋の完成を記念して建てられたことがわかります。

鳥集氏は、『薩藩旧記雑録 後編』<sup>(註11)</sup>によると、天正4年(1576)の高原城攻めに先立ち、当地の情勢に詳しい事から、島津方の諜報役に就いた事が記されています。対馬守は、その一族と推定されます。

又、碑の正面にある「青面金剛」ですが、元々この神は神仏習合の中で生まれた疫神の一つですが、この疫神を祀ることによって災厄から逃れるという風習から、後に益神に転向し、庚申碑に祀られるようになりました。最初は、複数の神とともに祀られていましたが、次第に独立神として扱われるようになりました。その青面金剛が独立神として庚申碑に祀られた最古の庚申碑が、この池の原の庚申碑です。



広原池の原庚申碑

## 5 6. 後川内奥の庚申碑



後川内奥の庚申碑

大字後川内字温水にあります。奥氏の屋敷内に祀られており、天文2年(1533)11月、庚申供養の際、法華経を読誦した記念に建てられたものと思われます。奥氏には、以前は沖氏と名乗っていたが、ある時神様がこの集落の奥に鎮座したことから奥と改姓したという伝承があります。

## 57. 狭野の庚申碑

大字蒲牟田字豆付の、岩元氏の旧住宅跡地横に建てられています。板碑型で、全長107cm。安永6年(1777)、庚申供養のために建てられたものです。



狭野の庚申碑



広原福原の庚申碑

## 58. 広原福原の庚申碑

大字広原字刈目にあります。板碑型で、全長165cm、中心部分と裾がセメントで補修されています。年号は途中で切断されていますが、文化11年(1814)に建てられたことがわかります。

## 59. 花堂高松の庚申碑

高松水神社境内にあります。板碑型で、全長165cm。銘はかなり見づらくなっていますが、天明元年(1781)9月に建てられたことがわかります。

## 60. 蒲牟田の庚申碑

鉾神社境内にあります。安永3年(1774)に庚申供養のために建てられました。



花堂高松の庚申碑



蒲牟田の庚申碑

## 6 1. 鹿児山の二十三夜碑

大字西麓字鹿児山の、鹿児山公民館の庭にあります。2基あり、享保16年(1731)3月に建てられたもので、四位左衛門の他15名の名前が刻まれています。



鹿児山の二十三夜碑

## 第4節 田の神像

### 6.2. 祓川の田の神



祓川の田の神

大字蒲牟田字越平にあります。神官型座像(椅子に着座)で、像長78cm、両手は別造で現在はありません。年不詳。像全体が丁寧に彩色され、台座がセメントで固められていますが、これは昭和25年に盗難に遭ったためです。

現在では、4月の都合の良い日曜日を選び、「田の神のモチダシ」が行われます。現在は、頭方・向方・後原の3班の代表(主取)が掃除・化粧直しを行い、その後、祓川公民館に全員が集まり、新たに誕生した子供が居た場合は、霧島東神社の神職がお祓いをし、それが終わると宴会が行われます。

現在はこのような形態になりましたが、以前は集落全員で小高い丘の上に祀られた丘の田の神に御馳走を持ち寄って、盛大に行われていました。

### 6.3. 蒲牟田の田の神



蒲牟田の田の神

大字蒲牟田字中村の、蒲牟田公民館の敷地内にあります。強装束の神官型座像(台に着座・背もたれ付)で、像高80cm、両手は破損していますが、膝に手を置いた状態であったと思われます。背中に名が刻まれており、それによると寛延3年(1750)に造られたことがわかります。

#### 6 4. 井手上の田の神



井手上の田の神

王子神社の参道にあります。強装束の神官型座像(椅子に着座)で、像長85cm。右袖に銘があり、享保9年(1724)4月8日に森雲平が寄進したとあります。

#### 6 5. 福原の田の神(1)

大字広原字刈目の福原水神社の敷地内にあります。顔の一部が破損しているものの、強装束の神官型座像で、像高100cm、両手は前で合わせて、笏を差し込むようになっているのがわかります。年不詳。



福原の田の神(1)



福原の田の神(2)



## 6 6. 福原の田の神(2)

大字広原字刈目にあります。強装束の神官型座像(椅子に着座)で、像高68cm、両手は前で合わせて、笏を差し込むようになっていいます。通常の田の神像と違い、首(セメントで補修)から下が板碑状になっており、装束の下部は皺を彫り込まれているのみで、足もありません。年不詳。

## 6 7. 八久保の田の神

大字広原字八久保にあります。2体ありますが、それぞれ意匠が異なります。

(1)は、顔などが破損しているものの、強装束の神官型座像(台に着座)で、像長94cm、両手は前で合わせて、笏を差し込むようになっていのがわかります。年不詳。

(2)は、顔の部分がなくなり、首のすぐ上に冠が置かれています。強装束の神官型座像(椅子に着座)で、像長77cm、手が破損しているため、手の組み方は不明。右肩に銘があり、それによると、天保9年(1838)4月に作られたことがわかります。



八久保の田の神(1)



八久保の田の神(2)

## 6 8. 花堂の田の神

高松水神社の境内にあります。狩衣の神官型座像(台に着座)で、像長107cm、両手は前で組まずに拳を作り、そこにそれぞれ差し込み口があります。丁寧に彩色されており、元々の彩色は不明。年不詳。



花堂の田の神



狭野の田の神

## 69. 狭野の田の神

大字蒲牟田字岡下にあります。表面はかなり傷みが激しく、顔の細かい造形などが分からなくなっています。狩衣の神官型座像で、全長75cm、両手前で組んで笏を差し込む穴が穿っています。年不詳。

## 70. 並木の田の神



大字西麓字水分にあります。僧侶型座像(台に着座)で、像長100cm、笠を被り、右手にしゃもじ、左手に飯椀を持っています。彩色はなく、年不詳。

嘉永3年(1850)に完成した下川原開田を記念し、その工事の奉行であった平島平太左衛門を似せて作られたという伝承があり、別名を平島田の神とも云います。

並木の田の神

## 7 1. 出口の田の神

大字西麓字村中にあります。百姓型立像で、像長73cm、笠を被り、腰に俵状の物を付け、両手で杖を持っています。年不詳。



出口の田の神



梅ヶ久保の田の神

## 7 2. 梅ヶ久保の田の神

大字西麓字梅ヶ久保にあります。百姓型立像で、像長95cm、笠を被り、右手にしゃもじ、左手に棒状の物(竪杵?)を持っています。他の田の神像は、棒立ちの物が多いのですが、この田の神だけ、右足を一步踏み出した状態になっています。年不詳。

## 7 3. 鷹巣原の田の神

大字広原字鷹巣中尾にあります。百姓型座像(椅子に着座)で、像長62cm、笠を被り、右手にしゃもじ、左手に袋のような物を持っています。台座の銘より、明治32年(1899)2月の鷹巣原の開墾成功に伴い、大正12年(1923)10月10日に地主等が共同して建てた事がわかります。

## 7 4. 小塚の田の神

大字蒲牟田字小塚下の、小塚公民館の敷地にあります。百姓型(笠と両手の持ち物)と神官型(装束)混合の座像(台に着座)で、像長79cm、笠を被り、右手にはしゃもじ、左手には升を持っています。表面は丁寧に彩色されています。年不詳。



鷹巣原の田の神



小塚の田の神

## 7 5. 南狭野の田の神

大字蒲牟田字水分にあります。以前は、3基ともばらばらにあったのですが、圃場整備に伴って、現在地に合祀されました。

(1)は狩衣(もしくは格衣)の神官型座像で、全長63cm、両手で笏を持つような格好をしています。年不詳。

(2)は自然石型で、全長164cm、年不詳。

(3)は祠型で、全長61cm、年不詳。中に石が納められています。



南狭野の田の神

## 第6章 無形民俗文化財（民俗芸能）

### ○神 楽

高原町では、祓川・狭野の2つの神楽が残されています。細かい箇所では相違があるものの、南九州の文化圏でみると、「霧島神舞(きりしまかぬめ)」という一つの枠の中に含まれています。

大きな特徴として、真剣を使用した舞が多く、高度且つアクロバティックな動きを要求した舞が多いという点が挙げられます。中でも、祓川神楽の「劔」、狭野神楽の「踏劔」などは、他の神楽では見ることはできません。又、県北に見られる、舞手や観客による囃し歌が見られないことも特徴の一つとして挙げられます。

詳しい来歴については不明ですが、戦国時代、島津氏の重臣上井覚兼が記した日記に、この辺りで神楽を舞わせた記述があることから、その頃には、既に行われていたものと思われる。

#### 1. 祓川神楽(昭和44年4月1日宮崎県無形民俗文化財指定、昭和49年12月4日国選択無形民俗文化財指定)

霧島東神社の社家の年中行事として伝承されており、毎年旧暦の11月16日(満月)の夕刻から翌朝の日の出頃まで舞われました。終戦直後までは、神楽宿の庭に御講屋(みこうや)を作り、そこで行われていましたが、現在は12月の第2土曜日から日曜日にかけて、祓川神楽殿前の庭で行われています。昔は伊勢講神楽と呼ばれていました。

番付は現在三十三番ありますが、昔から霧島東神社の氏子のみで行われていたため、舞手は少なく、したがって、舞われていない番付もあります。

真剣を使用した舞が多いのが大きな特徴ですが、その他にも、鬼神と人との対話を表現した舞や、浜下りの際に女性を同行させる等の特徴があります。



祓川神楽のうち『門境』



祓川神楽のうち『浜下り』

## 2. 狭野神楽(昭和61年4月1日町無形文化財指定)

狭野神社社家の年中行事として伝承されており、毎年旧暦の9月16日の夕刻から翌朝の日の出頃までおこなわれましたが、現在は12月の第1土曜日から翌日の日曜日にかけておこなわれています。場所も昔は神楽宿の庭で行われてましたが、現在は狭野児童館向の猿田彦神社の隣の空き地を祭場としています。別名狭野伊勢講神楽とも呼ばれ、伊勢講神事の中でおこなわれていました。

その起源は、祓川と同じ頃と思われるが、狭野神社・神徳院の衰退に伴って廃れていったと思われる。現在残っている形は、延宝8年(1680)、錫杖院の僧侶により、新たに門前の社人を集めて、社家が組織された際に作られたものと思われる。

狭野神楽の大きな特徴としては祓川と同じですが、その他の特徴として、江戸時代に寄進された物が数多く残存している点です。神楽に使用されている面は、鎌倉時代後期から室町時代初期にかけての形式を残すもの(能面・猿楽面に近い)で、その他、文政6年(1823)に作成・奉納された幡や、寛永4年(1627)銘の鉦などがあります。



狭野神楽のうち『浜下り』



狭野神楽のうち『杵舞』

### ○その他の民俗芸能・行事

#### 1. 苗代田祭(昭和61年4月1日高原町無形文化財指定、平成11年9月27日宮崎県無形民俗文化財指定)

別名「ベブがハホ」とも言います。「ベブ」は牛、「ハホ」は婦人のことを指す方言です。狭野神社に伝わる特殊神事の一つで、毎年2月18日に執り行われます。

前夜祭と本祭があり、前夜祭では、社殿で祝詞や歌詠みなどの儀式が行われた後、社務所で役割を決定します。

本祭では、社殿前の庭を神田と見立て、田打ち・馬鍬を付けた木牛による代掻きをします。その後、頭に折敷を乗せたハホ(妊婦)と神主が登場、その折敷の中の種籾を蒔き、最後は楽人の歌う庭立ちの歌を全員で詠唱しながら神田の周りを回って退場します。行事中に交わされる会話は、全て西諸県地方の古い方言で成され、即興で現在の話題などを取り入れるなど、狂言風に行事を進めていきます。

このような祭は、一般的に春祭(打植祭)と呼ばれていますが、南九州では「ベブがハホ」のような地域独特の名称で呼ばれることが多いようです。旧正月ないしは二月に行われる予祝祈願の田遊神事で、大分県の国東半島で行われている「松会」と呼ばれる修験行事が南九州で変化しながら展開したと推測されています。

いつから執り行われたかは不明ですが、先代の木牛に、文政年間(1818～1830)の墨書が見られることから、江戸時代を通じて行われたと思われます。



祭で使用される木牛



苗代田祭

この他、棒踊りが、狭野・蒲牟田・広原・花堂小塚の4地区に伝承され、奴踊りが狭野に伝承されています。

又、9月15日に行われる十五夜祭の綱引き(各地区)・三味線と太鼓の音にのせて仏様を移す浄土真宗の報恩講(祓川・狭野)、などがあります。

## 第7章 註 釈

### 1 『倭名類聚抄』

承平5年(935)頃に成立した、漢語の物名を分類し、それに倭名・万葉仮名を付けて解説した百科事典です。醍醐天皇の皇女勤子内親王の要請により源順が作成したと云われています。(『国語大辞典』『宮崎県史 史料編 古代』より)。

### 2 性空上人

延喜10年(910)～寛弘4年(1007)。京都の人、36歳で出家し、第18代天台座主慈恵大師良源(912～985)に師事しました。その後、康保3年(966)に播磨国(兵庫県)の書写山に円教寺を創建しました。霧島山には、36歳から4年間籠もって修行し、その後、筑前国背振山へ修行の場を移したと云われています。

### 3 『三国名勝図會』

天保14年(1843)、薩摩藩主島津斉興の命により、五代秀堯・橋口兼柄が編集したもの。文化3年(1806)に本田親孚・平山武毅により編集された『薩摩名勝志』が基になっています。薩摩藩内(薩摩・大隅・日向国諸県郡)の地勢が詳細に記されています(『宮崎県の地名』より)。

### 4 『日本書紀』

養老4年(720)に完成した日本最初の正史で、神代から持統天皇11年(697)までの事項が、編年体で記されています。舎人親王選定(『宮崎県史 史料編 古代』より)。

### 5 『続日本後紀』

貞観11年(869)に完成した正史で、天長10年(833)から嘉祥3年(850)までの、仁明天皇時代の事項が、編年体で記されています(『宮崎県史 史料編 古代』より)。

### 6 『日本三代実録』

延喜元年(901)に完成した正史で、天安2年(858)から仁和2年(887)までの、清和・陽成・光孝天皇時代の事項が、編年体で記されています(『宮崎県史 史料編 古代』より)。

### 7 『平家物語』(長門本)

『平家物語』は、『徒然草』では信濃前司行長が作者となっていますが、成立は15世紀頃と思われる。「平曲の語りに使用されるもの」「読むためのもの」2種類ありますが、読むための物は加筆・増筆が行われ、多くの異本ができました。長門本はその異本の一つで、原本は赤間神宮(山口県下関市)にあります。(『国語大辞典』『宮崎県史 史料編 古代』より)。



## 8 洪武通宝

中国明朝の初代皇帝、洪武帝(朱元璋、在位1368～1398)の時に鑄造された銅銭で、日本には、室町時代末期に大量に輸入されたようです。(『国語大辞典』より)。

## 9 『高原所系図巻冊』

町内の永濱家文書の一つ。天保4年(1833)、永濱武助師次によって書き改められました。1500年代半ばから明治4年(1871)までの、高原に関する出来事が記されています。特に江戸時代半ばからは詳細に書かれており、高原町史における第一級の史料です。

## 10 『日向地誌』

ひらべ きょうなん  
平部嶠南(元飢肥藩家老、1815～1890)が、宮崎県の命を受けて地誌編纂に取りかかり、明治9年(1876)から16年(1883)にかけて調査・編集し、17年(1884)に完成させました。宮崎県全域を取り扱った最初の地誌です(『宮崎県の地名』より)。

## 11 『薩藩旧記雑録』

文政年間(1818～1830)以後に、薩摩藩の記録奉行であった伊地知季安と、その息子の季通が編年集成した島津家中心の史料集。前後編・追録・付録から成り、延暦22年(803)から明治28年(1895)までの史料の写本等が掲載されています。島津氏及びその領地関係の基礎史料(『宮崎県史 史料編 古代』より)。

## 【参考及び引用文献】

- 高原郷土顕彰会 1935『高原郷土史』 高原町
- 宮崎県教育委員会 1970「高崎町仮屋尾地下式古墳調査報告」『宮崎県文化財調査報告書』第15集
- 宮崎県教育委員会 1973「高原町湯ノ崎地下式古墳調査報告書」『宮崎県文化財調査報告書』第17集
- 野口逸三郎 校訂・解題 1976『日向地誌』 図書出版新潮社
- 宮崎県教育委員会 1977「旭台地下式古墳群発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第19集
- 井上光貞監修 1979『図説 歴史散歩事典』 株式会社山川出版社
- 宮崎県教育委員会 1980「日守地下式横穴(古墳)54-1~4号発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第22集
- 宮崎県教育委員会 1981「日守地下式古墳群55-1~4号発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第23集
- 宮崎県教育委員会 1981「日守地下式古墳群確認調査」『宮崎県文化財調査報告書』第24集
- 五代秀堯・橋口兼柄編、原口虎雄監修 1982『三國名勝圖會』第4巻 図書出版新潮社
- 高原町教育委員会 1982『高原町の文化財』
- 高原町史編纂委員会 1984『高原町史』 高原町
- 宮崎県史編纂室 1991『宮崎県史 史料編 古代』宮崎県
- 尚学図書編 1982『国語大辞典』 小学館
- 宮崎県史編纂室 1993『宮崎県史 資料編 考古2』宮崎県
- 高原町教育委員会 1993「立切地下式横穴墓群」『高原町文化財調査報告書』第1集
- 宮崎県史編纂室 1993『宮崎県史 史料編 近世5』宮崎県
- 野口逸三郎 他編 1997「宮崎県の地名」『日本歴史地名大系46』 平凡社
- 高原町教育委員会 1998「高原町内遺跡詳細分布調査報告書」『高原町文化財調査報告書』第3集
- 高原町教育委員会 1999「高原町文化財調査報告書」『高原町文化財調査報告書』第4集
- 高原町教育委員会 1999「川除遺跡」『高原町文化財調査報告書』第5集
- 宮崎県教育委員会 1999『宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書』
- 千田 稔 1999『高千穂幻想～「国家」を背負った風景～』 PHP研究所
- 坂上康俊 他 1999『宮崎県の歴史』 株式会社山川出版社
- 原口泉 他 1999『鹿児島県の歴史』 株式会社山川出版社
- 高原町教育委員会 2000「榑粉山遺跡」『高原町文化財調査報告書』第6集
- 高原町教育委員会 2000「高原神楽～祓川・狭野神楽を中心とした民俗芸能調査報告書～」  
『高原町文化財調査報告書』第7集
- 高原町教育委員会 2001「町内遺跡Ⅰ」『高原町文化財調査報告書』第8集

※霧島山及び霧島六所権現・神楽については、椎葉民俗芸能博物館副館長の永松敦氏、苗代田祭については鹿児島短期大学教授の松原武実氏から、それぞれ助言を得ました。この場を借りて感謝申し上げます。

新 版  
高原町の文化財

2001年3月

発 行 宮崎県高原町教育委員会  
〒889-4492  
宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899  
TEL 0984-42-2111

印 刷 株式会社 長崎印刷  
〒889-4413  
西諸県郡高原町大字後川内18-2  
TEL 0984-42-1069